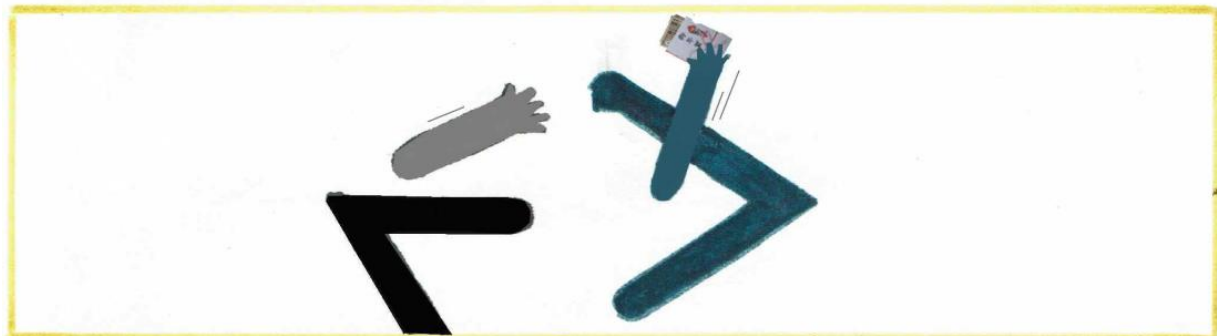
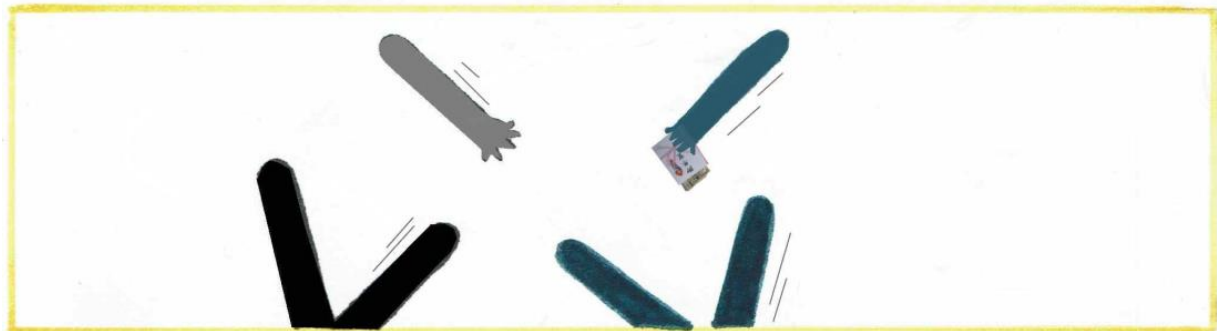


月刊 JMITU 手不心か



1月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2024年発行

No.469

セガトイズにセガのAM事業を吸収 社名を「セガフェイブ」に変更 なぜ今再編なのか

1月9日、セガトイズ、セガAM事業の吸収合併について会社より説明がありました。会社「本日の取締役会でセガの方が、AM事業の会社分割を行うという事を決意している。具体的にはセガトイズの方にAM事業を移管する。

セガのトップマネジメントの方から、この再編についての背景とか目的というのはイントラにてビデオメッセージで配信されている。今中期三年目終わるなか、来季はまた新たに次期中期計画策定中で、その中でセガとしてはトランスメディアの戦略をメインに据え置こうとしている。

トランスメディア戦略とはITを、いろいろなジャンルで活用してIT自体を太らせていくみたいに、今アフターコロナで。リアルの世界へ行く人が戻ってきている中で、今一度トイズという玩具ビジネスとAM事業を組み合わせて一つの会社にしてリアル

フィジカルみたいな表現、エンタテインメントの分野でITを活用し加速させていきたいと言うのが合併の狙いがあると思います。残るのがデジタルCSの部分ですけど、ここでのビジネスをセガ本体という事にし、両輪でトランスメディア戦略

を推進していく。対象は、セガAC事業本部と第2品証部の2つの組織で行っている事業をセガトイズに移管していく。いまの2つの組織に紐づいている資産、従業員、契約も会社分割で承継していく。

セガトイズの方に。移管した後、セガフェイブと社名を変えていく。既存のセガトイズはセガトイズカンパニーという形で当面仕事します。今回AMでセガの方から移ってきたものはAMカンパニーという感じで当面事業名としていく。セガフェイブは二つのカンパニーになってカンパニー制をしいていく。

以前のセガゲームスのように、SGNカンパニー、SGCカンパニーとイメージは似ている。カンパニー違うので当然、

人事制度も違う。AMカンパニーは今のセガ人事制度を使う。しかし3点ほどどうしても変わってしまうものがあり維持できない。

1つ目は、退職金制度で昨年の7月で申請をして、今ラIFプランを行い変わっていくがそれは変わらない、新制度でなく、旧制度の過去の対象というのは凍結されてみんな持っている。この金額でも変わらないですけど。そこにかける係数が、いつ辞めるかで変わってくる可能性がある状態になっている。

それが今回分割の対象になる人たちは2024年4月1日でセガ退職は確定してしまうので。例えば60歳定年までいたら係数が増えていたのにという人が不利益にならない

ならない。

いように対応する。今回転籍になる人には7月の制度移行の時にも補填金という事で全員ひとりひとり設定し、あなたが50歳でもし60歳定年まで居る場合はこの補填金をもらいますみたいなことを設定したが、この補填金の計算をもう一回対象者には再計算をし直し、会社分割、あるいは形式によって不利益が生じないような対応を図る。

2点目が。DC制度。今セガの社員はセガサミーDCに加入できますが、セガトイズも独自でDC制度を行っていて、セガトイズDC制度なので、今回転籍になる人は、セガトイズDC制度に移管することになる可能性があり、今セガサミーDC制度を継続できるかまだ検討中なのですが、いずれにしてもDC制度は福

利厚生としてなくなることはない。トイズDC制度かセガサミーDC制度か調整中で、セガサミーの場合は変更なしですが、移管される場合は、DC制度として60歳以降年金もらうとかはどのDC制度も同じだが、制度の中で運用するメニュー商品が違いで、福利厚生運用メニューでどっちがいいとかという話ではないかなと思っています。

3つ目が健康保険組合でセガトイズの健康保険組合は東京都電機健康組合ではなくて、SCSK健康保険組合で、これは選択の余地がなくフェイブに行けば東京電機健保からSCSK健保生命保険に切り替わっていく。2、3点目は福利厚生的な話で、1点目は7月の制度変更と同じ補填を行うので、会社として不利益

変更はないと思っています。

対象となるセガ従業員の人たちには、これから通知が行く。来週フェイブという新会社になり、カンパニー制で、その中でAMカンパニー、今のセガの現行の人事制度が使われます。なので、原則としては、変更はありません。ただし、三点ほど変化が生じることがありますという説明をさせていただく。」

組合「対象者は何人ぐらいいるのか？」
会社「契約社員、アルバイトを含め580名が対象」
組合「転籍には本人の同意が必要では？」
会社「同意は不要です。会社分割なので、そこは不要だが労働者として異議申し立ての期間はある。今回は何で自分がこの会社なのかとか、な

ぜ自分が対象ではないのかという部分がなく、対象者が完全にAM組織なので、はつきりAC事業と第2品証という主に従事しているのはAMになつているので判断の余地はない。」

組合「勤務地は変わるのか」
会社「勤務地も変わらない」

2015年には、セガゲームス、セガインタラクティブとCS、AMで分社、その5年後には合併、そしてまた今回は分社と常に分社や合併を行っています。

過去には会社ごと売却されてしまったセガエンタテインメントなどもあります。

そこで働く従業員が心配なのは、会社が存続するのか、将来の不安です。

従業員に不利益があつてはなりません。

仙洞田一彦

晴れてはいるが、放射冷却とかで寒い朝だ。

八時少し前、チャイムが鳴らされ、すぐにドアがたたかれた。せつかちな音の連続は、強制されているようで嫌な気分が真つ先に来た。セールズ、勧誘が来るにしては早すぎる時間だ。

チャイムやノックの仕方に、訪問客の態度が表れる。役所や警察、NHKは、チャイムも長く押し、ノックも強い。出てきて当然、文句言わずに出て来いという感じ。セールズ、勧誘、あるいは知人は、チャイムやノックの強さ、間隔

に配慮を感じさせる。

コーヒーを飲もうとカップを持ち上げたときに、強い音がした。カップに口をつけずにテーブルに置いた。

音は居留守を許さない威圧感があった。怖れがよぎる中、玄関に立って行き、鎖を掛けたままドアをゆっくり押した。表には良く見知った男の顔があった。男が何か言ったが、何を言ったか分からない。耳に手を当てて、顔をドアの隙間の方に寄せた。二三度繰り返した。

「何も食べてない」
「そう言うのが聞こえた。いかに空腹のようだ。肩をすぼめて、寒そうにしていた。私は首を横に振り、言った。「役所に行ってくれ」
すると男は物も言わずに踵

を返し、離れて行った。私はドアを閉めて鍵を掛けてテーブルに戻った。かわいそうに思ったが、断って当然という思いもあった。

男は以前このアパートに祖父母と住んでいて、子供の頃から知っている。もう五十歳くらいになっているはずだ。

四、五年前、チャイムが鳴り、ノックがあった。誰か分からないので、鎖を掛けたままドアを開けた。この男だった。

「千円か、二千円貸してください」
そう言った。それまでの長い間、挨拶する程度の付き合いだった。金を貸してくれ、というのは初めてのことであった。声を小さくして、いま生

活保護を受けている。その金が入ったら返すと言った。

その時に二千円貸した。

ずっと昔、祖父母とまだ子供だった男三人で暮らしていたが、大分前に祖父が亡くなり、男の顔も見なくなった。年齢が年齢だから独立したのだろうくらいに思っていた。しばらく祖母の一人暮らしだったはずだ。何時頃から記憶はないが、男も、男の母親という人の顔も見かけるようになった。三人で暮らすようになったのかと思っていた。

それから間をおいてまた来た。前の二千円については何も触れず、また貸してくれというから断った。こんなことがあると、他人の生活でも、どんな暮らしをしているのだろうかという気がなる。

また来た。今度は「コロナの給付金が出るから、貸してくれ」と言った。給付金が出たらそれで返すという話ではなく、逆だった。

前は生活保護が出たら返すと言って返さなかった。それで返していたら信用するが、返さなかったから、その時も断った。

たしか、その後も一回か、二回来た。繰り返されると、私の精神的な負担になった。餓鬼の頃、このあたりで走り回っていたころのことを知っているため、断ってはいたもの、助けるべきかどうかと、その都度悩んではいた。しかし、味をしめるということもあるので、警戒しなければならぬ。

働き盛りの年齢でいながら

働いている風ではない。生活保護を受けているというのは、外見では判断できない障害があるのか。しかし、タクシーに乗って出かける様子を見たり、男と夫婦ではないかと思う女性との二人連れを見かけたりすると、本当の生活はどうなっているんだ、信用できないという思いを強くした。それは私が金を貸さないことを合理化するために、そういう目で見ているのかと思ったりもした。

そうこうしているうちに祖母、母親、男三人がアパートから出て行った。何十年も一緒に住んでいたからひとこと挨拶ぐらいしたらどうかと思っただ。しかしそういう気持ちよさ、男が近くからいなくなることへの安堵感の方が強か

った。夏の頃だったと思うが、

たまたま外を見ていた時、その三人がタクシーに乗ろうとしていた。カーテンの蔭から様子を見ていたのだが、祖母はアパートの方をしばし眺めてからタクシーに乗り込んだ。

翌日その部屋が空き室になっていたので確認した。家賃が払えなくなっただけではないようだ。生活の様子、噂というのは伝わってくるものだ。だが、もう一年以上経っているが、そんな話は聞こえてこなかった。どこへ引越したかもわからない。

今朝、その男がふたたび現れたのだ。

「長いこと時間が経ってしまったが、申し訳ありませんでした」とか言って二千元

出したのではない。

「何も食べてない」

そう言ったのだ。今までどこにいたのだ。生活保護はどうなったのだ。祖母や母親はどうなった。うちに最初に来たのか。あちこち回ってどこも貸してくれなかったから、ついにうちにたどり着いたのか。それとも、推測があれこれ浮かぶ。

今日は掌編小説締切日だ。今朝まで何を書くか、メドも何にも立っていないかった。

そんな私の状態を知ってか、知らずか、朝早く、男はチャイムを鳴らし、ドアをたたいてくれた。

胃が痛くなってきた。